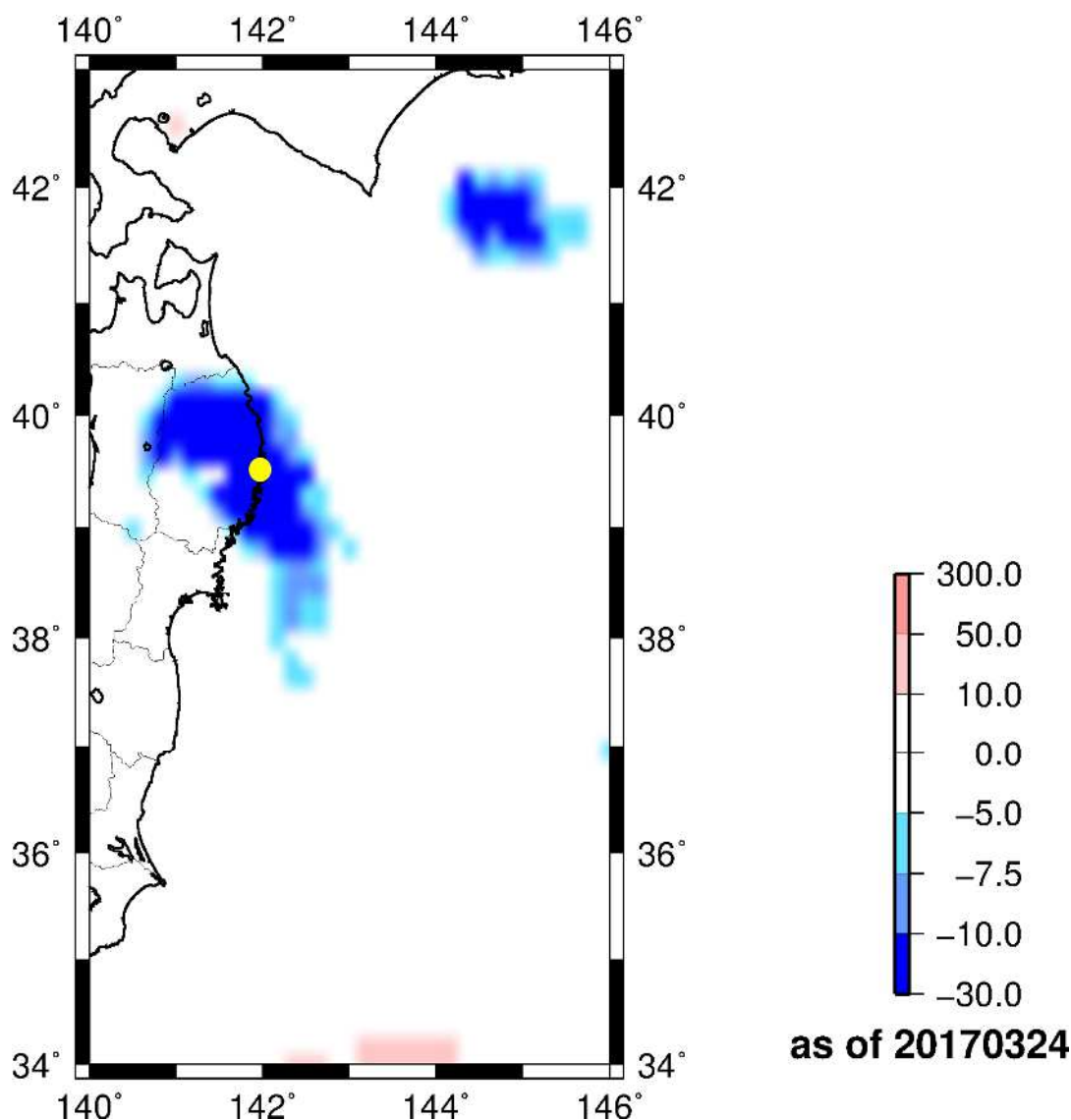




東北地方海域をターゲットとした地下天気図®

2月13日のニュースレターに引き続き、東北地方沖合における解析です。2月13日にも触れましたが、これからも東日本大震災の余震（これは一般的には逆断層型の地震）や、東北地方が東の方向に大きく動いた事を調整する動き（正断層の地震）が続きます。昨年11月22日に福島沖で発生し、津波警報が出されたマグニチュード7.4の地震（正断層型の地震）もこの一連の動きです。下の地下天気図は3月24日時点のものです。



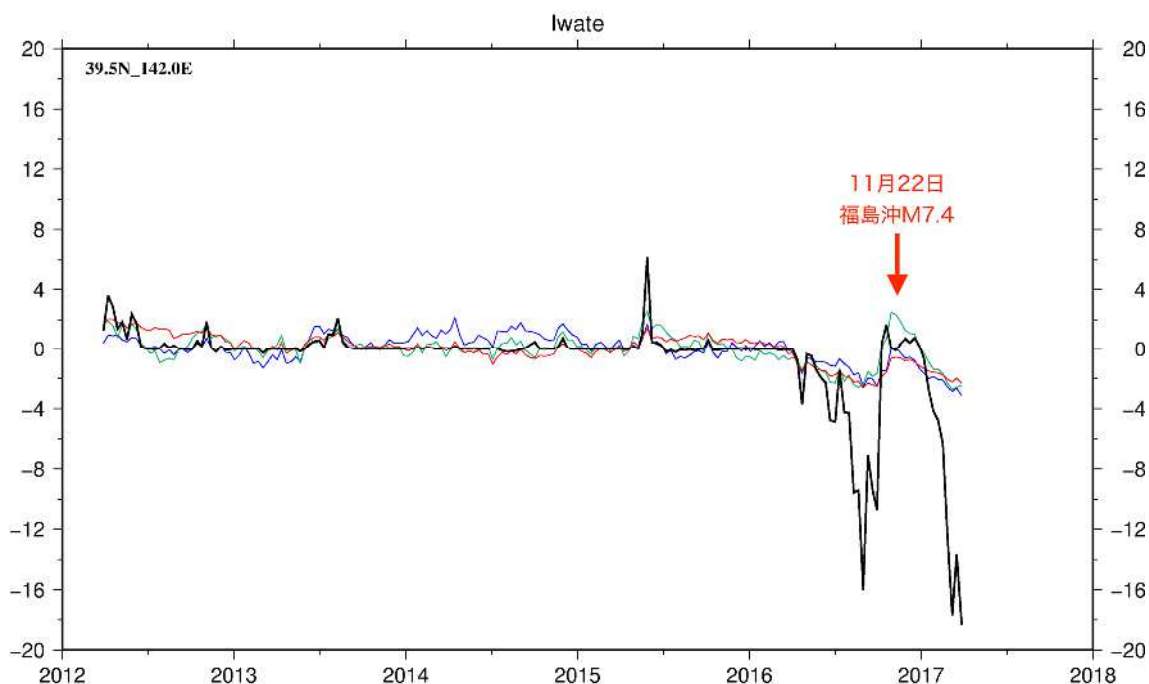
2月13日のニュースレターでお示した地下天気図より、岩手県周辺および北海道沖の静穏化（青い領域）が拡大しているのがわかります。

東北沖は311の大変動を受け、非常に解析の難しい地域で、静穏化は岩手県を中心とした地域ですが、宮城県沖も青森沖でも津波注意報・警報を伴う地震が発生する可能性が存在します。あるいは山形県の内陸も可能性はゼロではありません。東北地方北部で異常とお考え下さい。



下のグラフは北緯 39.5 度、東経 142 度(前ページの地下天気図中の黄色い丸印で示した地点、岩手県の海岸地域)における地震活動変化の時間変化です(時系列データ)。グラフが下側に下がっている時期が地震活動静穏化の時期です。このグラフから 2016 年中ばぐらいからグラフが下側に振れ(静穏化)、それが戻った段階で 11 月 22 日の地震が発生しています。一度静穏化は解消したのですが、現在、2 度目の静穏化が進行中である事がわかります。

残念ながら現在の地下天気図では、どの地域に地震活動の異常が存在するかは言えますが、次に発生する地震の正確な場所の予測や、その発生時期を正確に予測する事はまだ難しい状況です。



日本列島全域で火山活動が活発化？！

3月25日にはおよそ8ヶ月ぶりとなる鹿児島・桜島火山の噴火があり、火砕流の発生も確認されています。浅間山も活発な活動が続いています。

さらに伊豆諸島につらなるベヨネーズ列岩と呼ばれる地域で24日には海面の変色が確認され、気象庁は噴火警報を発令し、周辺の海域での警戒を呼びかけています(ベヨネーズ列岩はフランス軍艦ベヨネーズ号によって発見された)。ベヨネーズ列岩という名前はあまり馴染みがないかもしれませんが、東京都に属する青ヶ島からの距離は60kmほどという近さです。近年青ヶ島は“秘境”ブームもあり、人気上昇していますが、ここも活火山です。東海大学では現在GPS地殻変動観測をこの青ヶ島で実施しています。

またこのベヨネーズ列岩と同じ海底火山に属しているのが、「明神礁」です。明神礁は昭和27年に最初の噴火を報告した焼津港所属の第11明神丸にちなんで命名されました。そして同年9月24日には海上保安庁の第五海洋丸が突然消息を断つという事件が発生し、乗組員全員31名が海底火山の噴火に遭遇し、殉職したものと推定されています。

